



仁愛女子短期大学同窓会

六和会会報

同窓会会報

VOL.55

令和7年8月25日発行

今年は関西にて開催!!

令和7年度 六和会総会
11月15日(土)「東華菜館」にて

特集

座談会

テーマ

「ひらく、ここから。」

開学60周年の歩みとこれから」

60th Anniversary

祝

仁愛女子短期大学

開学60周年

一人ひとりが輝く、仁短同窓生。

ご挨拶

「素敵な支援事業」 会長 大久保 郁子

六和会ランチデー実施中！
仁愛女子短期大学公式キャラクター「あいたん」です。

令和7年度 六和会総会開催!!

【重要なお知らせ】会報の「送付期間変更」について

【特集】座談会 「ひらく、ここから。」
開学60周年の歩みとこれから」

令和6年度 六和会総会 & 懇親会ご報告

卒業生はいま…

「皆さん、すこやかに過ごしてはいかがでしょうか！人生、アツという間です、本当！」

●昭和44年度 家政科 栄養士コース卒業 右谷 久枝 (旧姓：根府)

「日々感謝」

●昭和56年度 児童教育学科幼児教育専攻卒業 大浦ますみ (旧姓：福塚)

栄養士養成課程同窓会の報告
“仁短祭”のお知らせ

活動報告&計画

“しおん”をご利用ください！/ヨガ教室のお知らせ

六和会後援事業

六和会の情報をSNSで発信しています！

幼児教育学科ホームカミングデー開催

ふるさと納税で、応援！

社会人入学生募集のお知らせ

じんたん公式SNSで情報発信しています！

再就職の情報提供

「素敵に支援事業」

会長 大久保 郁子 (旧姓 佐藤)
 (昭和46年度児童教育科保育コース卒業)



す。私たちはいつも誰かに助けられ、誰かを助ける。日々の生活の中で色々な楽しい活動を通して会話が生まれ笑顔になる。これだけでも大きな支援が生じていると思います。

開学60年の節目に、同窓会として何か支援ができないかと、学長先生、短大事務局の方々とご相談をさせて頂いたところ、学生生活支援の一環として短大が行っている「仁短ランチデー」の活動を

仁愛女子短期大学が開学60周年を迎えられましたこと、誠に「おめでとう」ございます。仁愛の建学の精神の元60年の歴史を刻まれました、学び舎とともにできましたことを同窓生として誇らしく思います。短大はこれからも新しい歴史を刻まれていくことと想います。

知りました。月一回100円で昼食を提供されるこの活動は学生にとっても人気があり、いつも学生を笑顔にするという話を伺いました。お腹を満たし、笑顔にする。とても素敵な支援ではありませんか。

さて世界ではいろいろな争いが起き、その都度各方面から様々な支援の手が差し伸べられていきます。争いだけに限らず、困ったときは問題解決のために、楽しい時は更に楽しく、どこからか救いの手が差し伸べられるのではないのでしょうか。

「支援」という言葉を辞書で引きますと、「支へ、は支える、援は助ける。力を貸して助けること」と記されています。

今回、この学生支援事業「仁短ランチデー」を同窓会が支援することになりました。「六和会ランチデー」と名付けた活動は、短大及び学生への支援にとどまらず、同窓会「六和会」の知名度をUPする最高の支援活動になるのではないのでしょうか。今年度4月から、毎月一回「六和会ランチデー」はスタートし

ました。100円を片手に長蛇の列ができるというとてもうれしい報告を受けております。六和会や短大発のインスタグラムなどを見ますと、若者たちのはちきれようような素敵な笑顔を見ることが出来ます。短大生活を楽しみながら勉学に励み、卒業後の同窓会への道を歩んでいただきたいと思っております。

今年度の総会は、関西地区京都で開催します。(総会の案内をご覧ください。)参加人数に制限はありませんが、年齢・地域の垣根を超えて同窓生が集い、笑顔が会場いっぱいになることは、会としての大きな支援事業でもあります。私たちは皆さんとお会いできるのを楽しみにしております。

今後同窓会「六和会」は、会員皆様と情報交換を行いながら様々な活動を支援して参ります。また、学生たちの活動にも微力ながら貢献していきたいと考えております。最後になりましたが、皆様方のご健康とご活躍をご祈念いたします。素敵な一年をお過ごしください。

ひらく、ここから。

JINTAN 60th Anniversary (仁短60周年)



地域の中で60年

仁愛女子短期大学は、女性の大学等への進学意欲が高まりつつあった1965年に、地元・森田地区のご協力のもと開学しました。

開学以来、多くの学生や保護者の皆さま、地域の皆さまに支えられ、2025年に開学60周年を迎えます。

これからも皆さまとのつながりを大切に、地域に密着した教育・研究活動をさらに推進していきます。

公式キャラクター「あいたん」です
 よろしくお願ひします



詳しくはこちら！
 60周年記念
 サイト



Profile.

仁短の子アリーダー。自分の未来を切り拓くためにさまざまな挑戦をしている仁短生を応援するのが大好き。

HAPPY 六和会ランチデー 実施中!

仁愛女子短期大学は、今年度、開学60周年を迎えました。この記念すべき年を祝し、六和会では、学生への支援の一環として今年から5年間、100円ランチ「仁短ランチデー」に寄付を行い、「六和会ランチデー」と名付けられることになりました。学生たちの笑顔が広がる、温かいランチ時間を六和会からも応援してまいります。



大久保会長から秀学長へ
 今後5年間ランチ提供目録を贈呈

*さきげんよう、クロツルさん
 とのゴラボ

今年は関西にて 令和7年度 六和会総会を開催!!

開催日 令和7年11月15日(土)

会場 「東華菜館」 京都市下京区四条大橋西詰 TEL.075-221-1147

今年度の総会は、「東華菜館」(京都市)にて開催いたします。この「東華菜館」は、歴史ある北京料理店でレトロな雰囲気の建物が特徴的です。現在も日本最古のエレベーターが稼働していることでも有名なお店です。総会の後は、禿正宣学長と今年より副学長に就任された石川昭義先生を交えて懇親会を予定しております。懇親会では、お楽しみタイムも計画していますので、皆さまお誘い合わせの上、ご出席いただきますようお願い申し上げます。

関西地区の方 …………… 現地集合

福井県より参加の方 …… 専用バスにご乗車いただけます。(片道のみ乗車も可)

短大 …… 福井北・鯖江・武生・敦賀の各IC …… 会場

※定員になり次第受付終了とさせていただきます。 〈予定〉



東華菜館

- 内容**
- 11:00～ 受付開始
 - 11:30～ 六和会総会
 - 12:00～ 懇親会 「東華菜館」でお食事&お楽しみタイム
 - 14:00 終了予定

参加費 8,000円

参加費は指定の口座に事前にお振込みいただきますようお願いいたします。振込手数料はご負担ください。参加費のお振込みを確認後、受付完了となります。受付が完了しましたら、申し込み締め切り(9月30日)以降に、受付完了と詳細のハガキをお送りしますので、当日受付までお持ちください。

申し込み方法 六和会ホームページよりお申し込みください。
<https://jintan-rokuwakai.com/>



申し込み締切 令和7年9月30日(火) (定員になり次第、受付終了)

重要なお知らせ

会報の「送付期間変更」について

六和会では、これまで会報の送付を「卒業後20年まで」とご案内しておりましたが、昨今の送料金の値上げ等、諸般の事情により、今後は『卒業後5年間』を送付期間とさせていただきます。今後も会報の発行を継続するため、何卒ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

なお、会報は六和会ホームページにて、デジタルブック版またはPDF版をご覧いただけますので、ぜひご活用ください。また、郵送での受け取りをご希望の方は、六和会ホームページよりお申し込みください(※有料)。

詳細・お申し込みはホームページから

<https://jintan-rokuwakai.com/bulletin15/>

お問い合わせ先/仁愛女子短期大学 同窓会 六和会 事務局

TEL.0776-56-1133 FAX.0776-56-2922 9:00~17:00まで(土・日・祝日を除く)

六和会インスタでも→
最新情報をお届け!!



2025.6.12(木)

会場/仁愛女子短期大学会議室

特集

「ひらく、ここから。」

座談会

開学60周年の歩みとこれから」

令和7年6月12日(木)に「ひらく、ここから。開学60周年の歩みとこれから」というテーマで座談会が開かれました。これまでの短期大学の歴史を振り返りながら、教育のあり方や社会への貢献について、六和会が、卒業生と短大をつなぐ大切な役割を果たしていることや、学生とのつながりをどのように深めていくかについても意見が交わされました。



熊木副会長

今年、仁愛女子短期大学は60周年を迎えました。本学ホームページの特設サイトで、懐かしい写真とともに「60周年の歩み」を紹介しております。60周年を迎える本学のキャッチフレーズは「ひらく、ここから。」です。このキャッチフレーズにちなみ、座談会のテーマを「ひらく、ここから。開学60周年の歩みとこれから」とさせていただきます。

まず初めに「短大の60年の歩み」ということで、学長と大久保会長からはそれぞれ印象に残っているエピソード等をお話していただけたらと思います。石川副学長は今年度より仁愛大学から短期大学にご着任されたということで、大学から見た短大の印象や実際に短大にいられて感じたことなどをお話いただければ幸いです。

禿学長

60年と言っても、私は仁愛女子短期大学に着任して50年なので、最初の10年はほとんど知りませんが、当時の様子については、お亡くなりになった学園長や、先輩の先生方からお話を伺っておりました。その中で特に印象的だったのは、仁愛女子短期大学が創立当初から地域に根ざし、地域の期待を受けて設立されたということです。

私の思い出として特に印象に残っているのは、1982年に武生キャンパス(現在は仁愛大学)が開設された時のことです。短大が福井と武生の2つのキャンパスに分かれることになり、「どのように運営していくか」が大きな課題でした。今では新幹線の開業などで利便性が高まりましたが、当時は「山の中」という印象が強く、国道8号線も現在のように整備されておらず、アクセスが大変な場所でした。そうした状況の中で、「魅力ある短期大学にしたい」という思いから、「情報教育」の導入に踏み切りました。

当時、家政科や生活科学関係の学科でコンピューター教育を扱っている機関

はほとんどなく、そのような中で「情報実務コース」を立ち上げることは、とても新鮮で、面白く、楽しい経験でした。時代的にも、コンピューターに初めて触れる学生が多く、キーボードを前に「何これ？」と恐る恐る触れるような光景が日常的に見られました。そうした時代背景の中で、武生キャンパスは短期大学としての存在感を高め、活気ある発展を遂げていったと感じています。

※当時の武生キャンパスに関する詳細は、六和会会報 vol.42「座談会 武生キャンパス今昔物語」に掲載有。

熊木副会長

私は、武生キャンパス第2期生です。今の学長のお話を伺い、当時「情報教育」を学んでいた学生時代のことを懐かしく思い出しました。

大久保会長は福井キャンパスのご出身ですが、学生時代の楽しい思い出や、六和会会長になられてからのことなど、心に残っているエピソードなどをお聞かせいただければと思います。

大久保会長

私は、児童文化研究部に所属し、青春を謳歌しました。部員が50数名いましたので、それをまとめて活動していたのが今に繋がっていると思います。その時にリーダーとしてどうあるべきか、また、問題が起こった時にどう行動すべきかなど、さまざまな活動を通して多くのことを学びました。

短大生活では、現在のように自家用車で通学する学生はほとんどおらず、黒いスーツを身にまとい、森田駅からまるでアリスさんの行列のように、学生たちが連なっており、短大へ向かって歩く姿が、今でも印象に残っています。

私はこれまでに、学生として、仁愛附属幼稚園の教諭として、短期大学の非常勤講師として、そして、縁あって六和会会長として、短大と深く関わる「フルコース」を経験してきました。そのため、この短期大学の歴史は、まさに私の体と



あいたん
仁愛女子短期大学公式キャラクター



学生会 会長(生活情報デザイン専攻2回生)
長谷川 愛



仁愛女子短期大学 学長
禿 正宣



六和会 副会長(短期大学職員)
熊木 雅代



六和会 会長
大久保 郁子



仁愛女子短期大学 副学長
石川 昭義

心に沁みついていると感じています。
禿学長 児童文化研究部には、今で言う「ゆるキャラ」のような着ぐるみが大々さんあり、当時としてはその先駆けとなる活動をしていましたね。
大久保会長 地域のイベントによく呼ばれました。
石川副学長 園にも呼ばれましたか？
大久保会長 園というよりは、大規模なイベント会場に呼ばれ、来場者を惹きつける役割も担っていました。福井市文化会館(当時)での「子どものつどい」の発表会は勿論、地域公演として勝山文

化会館へ行つたこともありました。簡易舞台を持参して、公共交通機関を利用しながら、さまざまな場所へ出かけました。この活動は20年以上受け継がれ、その規模と継続力は、今振り返っても誇らしく思えるのです。
石川副学長 顧問の先生はいらっしゃったのですか？
大久保会長 谷出千代子先生と、仁愛女子高校の渡辺聖亜先生が顧問として関わって下さいました。当時は平日にアルバイトをしている学生が少なかつたので、こうした活動に力を注ぐことがで

きたんです。
学生の皆さんには、学生生活を思いきり楽しんで欲しいですね。最近ではサークル活動も活発になってきていると聞いています。限られた時間の中で、一時間でも二時間でも、自分の楽しいと思えることを続けて欲しいと思います。
熊木副会長 児童文化研究部は、在学中だけでなく、卒業後も同窓会のような形でつながりが続いていると伺いました。
大久保会長 今から7年前に、私より7〜8年後輩の卒業生だけで70名以上が集まったことがありました。これほどの人数が集まるとは思っておらず、会場が手狭で大変でしたが、それも良い思い出です。学年ごとの結束がとても強く、高校時代とは違い、短大では将来に向かって真剣に取り組む時期でしたから、意識の深まりもあつたのだと思います。その流れが卒業後も続き、今でもしっかりとした絆となつて残っているのです。
熊木副会長 クラス単位の同窓会とは異なり、共通の目標を持つて活動した仲間同士だからこそ、深い絆が育まれたのだですね。
大久保会長 私の青春は、この短期大学の児童文化研究部で過ごした日々詰まっています。素晴らしい学生時代だったと、今でも感謝の気持ちでいっぱいです。
熊木副会長 石川副学長には、今年度より仁愛大学から短期大学へご着任いただきました。もともと仁愛大学の子も教育学科の先生でいらつした関係で、これまでも短期大学の幼児教育学科において、非常勤講師としてご協力いただいております。
そうしたご縁も踏まえて、もしかか印象に残っているエピソードなどがあれば、お聞かせいただければと思います。
石川副学長 特別なエピソードという訳ではないのですが、この春に着任し、E館に研究室をいただきました。仕事をし

ていると、園児の声が聞こえてくるのですね。それが、仁愛大学との一番の違いだと感じています。非常に心地よくて、良い環境だと思つています。
このような環境を、今後の学生の教育や自分の研究に活かしていけたらと考えています。子どもたちの声は日常的に聞こえてくるというのは、学生たちにもきつと届いていて、将来就職であろう職業を思い描くうえで、大きな要素になるのではないかと感じています。それもまた、環境の持つ力だと思つています。
最近では、球技大会が開催され、バスケットボールの試合や、開学記念のアツセンブリアワーで行われた大縄跳びなどの様子を見せていただきました。それらの姿を拝見しながら、今の学生たちの若さとエネルギーには到底ついていけないな...と、率直に感じました。時代こそ違え、大久保会長が学生だった頃の若さやエネルギーと、今の学生のそれはきつと変わらないのだらうと思つました。
また先程、大久保会長が「サークルを通して学んだ」とおっしゃったことに、私も大いに共感します。私自身も、部活動の経験が大きく自分を育ててくれたと感じています。もちろん、短大での学びの時間は非常に大切ですが、それに加えて、学業以外の場面で得られる学び、特に人との関わりや実践的な経験も、ぜひ大切にしたいと思つています。
禿学長 そういえば、この前は学生会主催の球技大会の企画、福井ブローウィングスの選手をお招きしてのフリースロー対決や学内バスケットボール大会、お疲れ様でした。
長谷川さん はい、みんなで協力して取り組みました。正直なところ「あまり学生の参加はないかな」と思つていました。でも実際には、福井ブローウィングスのファンの方が来てくれたり、「応援しに来たよ！」と言ってくれる学生もいたりし

て、すごく嬉しかったですね。ああ、まだみんな、やる気あるんだ！」って実感できた瞬間でした。
私が一年生のときに学生会に入らせていただいたことも、もともと美術サークルにも所属していたこともあり、いろいろなサークルの様子を見てまわる機会がありました。その中でよく耳にしたのが、コロナ禍以降、サークルのメンバーが減つてしまつたという声でした。それで、「みんなサークル活動しないの？」ってやんわり聞いてみたら、「バイトが忙しくて...」という反応が多くありました。でも、「今しかできないこともあるのではないかな」と思つて。それで、今年の入学式では、みんなでサークル紹介のピラ配りをしよう！ということになりました。その甲斐もあり、いろいろなサークルが活動を再開し始めていて、とても嬉しく思つています。
学生会として、これからも楽しい企画をたくさん実現させたいですし、仁短祭ももつともつと盛り上げていきたいと思つています。
熊木副会長 いろいろな楽しい企画を通して、長谷川会長が今の学生たちに元氣や活力を与えてくれているようで頼もしいですね。
ところで長谷川さんは、新潟へご出身だとうかがいましたが、どうして福井の仁愛女子短期大学を進学先として選ばれたのか、ぜひお聞きしたいです。
長谷川さん もともと新潟県内での進学を考えていて、四年制大学に進む道もありました。でも、どうしても「デザインを学びたい」という思いが強くあつたんです。いろいろ調べてみたところ、新潟には専門学校デザイン科は多いのですが、私はやはり短大や大学という形で学びたい気持ちがありました。
ちょうど母の実家が福井にあつたので、福井の学校も視野に入れ、母と一緒

にいくつか調べて、実際にオープンキャンパスにも参加しました。

その時、「こんなにきれいなキャンパスで学べたらいいな」と思ったのが、仁短でした。そして何より、ここではデザインだけでなく、将来の就職にも強いスキルが身につくと知り魅力を感じました。たとえば、MOSやPowerPoint、Excel、Wordなど、実務的な力も学べる点が決め手になりました。

熊木副会長 入学してから現在に至るまで、学生会の活動などさまざまなことに取り組んでくださっていますが、入学前に思い描いていたイメージと比べて、何かギャップのようなものはありましたか？

長谷川さん 最初は、「高校時代の友達同士で固まってしまっているのではないか」と少し不安に感じていました。でも、授業を通じて関わるうちに、「この子はすごい力を持っているな」とか、「一緒にいると楽しいな」と思えるようになり、自然と友達が増えていきました。

私たちのクラスは、「みんなでわいわい楽しもう！」という明るくにぎやかな雰囲気があつて、おかげで毎日とても楽しく学生生活を送れています。

熊木副会長 なるほど。では、現在2年生ということ、授業や学び、学生会での活動など、さまざまな経験をされてきたかと思いますが、今後の仁短に期待することや、「こうなったらいいな」と思うことがあれば学生の視点からぜひお聞かせください。そして、後輩へのメッセージもあればお願いします。

長谷川さん そうですね。先ほども少し触れましたが、私たちはコロナ禍の影響を大きく受けた世代で、中学生のときには修学旅行が中止になったり、高校では規模を縮小した行事しか経験できなかったりと、さまざまな活動を自粛せざるを得ない時期を過ごしてきました。だからこそ、「もう短大で楽しむしか



ない！」という気持ちで進学してきました。「短大で青春を満喫しよう！」という思いで今の学生生活を送っています。

そんな背景があるからこそ、今の瞬間を大切にしたいと思っています。後輩のみなさんには、「アルバイトも大事だけれど、学生生活は今しかできないことがたくさんあるよ」と伝えたいです。サークル活動や授業など、自分から積極的に参加して、「生懸命取り組んで欲しいな」と思います。

それから、生活情報デザイン専攻の、あるある、かもしれませんが、内気な子が多い印象がある一方で、実はすごく高い技術力を持っている学生が本場に多いです。私自身、入学してすぐに「えっ、みんなもうこんなことできるの!?!」「スピードも早い!?!」ついでにいけるかな…と驚かされました。

だからこそ、そういう自分の力を信じ、自信を持って短大での2年間を過ごして欲しいと思っています。

熊木副会長 長谷川さん、ありがとうございます。

このように、学生の皆さんが前向きに学生生活を送られているお話を伺い、六和会としても大いに励まされております。私たちも、このような学生の皆さん

を心から応援していきたいと考えております。その一環として、仁愛女子短期大学が60周年を迎えることを記念し、六和会では「六和会ランチデー」と題し、月に一回、学生の皆さんに100円でランチを提供する取り組みを、今後5年間にわたって継続的に実施していくことといたしました。

この学生支援の新たな取り組みと展望について、大久保会長からお話しいただければと思います。

大久保会長 私が会長になって5年目になります。それまでは外から六和会を見ていた立場でしたが、さまざまなかご縁がもたらしたことで、この役を務めることになりました。六和会の役割を知る機会を得ました。六和会の役割は、卒業生と短大をつなぐパイプ役であり、六和会会報や総会を通じて情報発信を行ってきました。

しかし、これからは「短大を支援する」学生を支援する」という考え方が大切だと感じています。

今年、学長先生ともお話しする中で、「60周年に何か支援ができたら」と考えていたところ、形ある支援ではなく、学生の心に届くような支援のあり方が話題に上がりました。そこから「六和会ランチデー」というアイデアが生まれ、学生皆さんのお腹を満たし、笑顔を生む取り組みとして実現しました。六和会は、卒業生を大切にすることでなく、これから六和会に加わる現役学生を支援することも大きな役割だと考えています。

また、インスタグラムでの発信も非常に効果的だと感じています。「六和会ランチデー」で楽しそうに食べている学生さんたちの写真を見ると、「やってよかった」と心から思います。六和会って何だろう?と学生が関心を持ち、自分たちもいずれ六和会の一員になるという意識を持つてもらえることも、会長として大切にしたい点です。

熊木副会長 長谷川さんは、六和会のインスタをご存じですか。

長谷川さん いえ、知りませんでした。

— 笑い声 —

熊木副会長 それは私たちのPR不足ですね。申し訳ありません。今後は、もつと多くの方に六和会の活動を知っていただけるよう、積極的に情報発信していきたいと思っています。ぜひ、学生のうちから六和会とのつながりを感じていただき、卒業後も自然と関わりを持ち続けられるような関係を築いていけたらと思っています。

大久保会長 「六和会ランチデー」ですが、ひと月に一回で満足でしょうか？

長谷川さん はい。本当にありがたい取り組みだと感じています。私自身、一人暮らしをしているので、朝は慌ただしくお昼ご飯を用意できないことも多いです。学食ももちろん安いのですが、毎日利用すると食費の負担が大きくなってしまつて…。そんな中で、「今日は100円ですっかり食べられる」と思えるのは、とても助かっています。

大久保会長 学生さんたちの評判はいかがでしたか？

長谷川さん もう、すごい行列ができますよ。みんな笑顔でおいしそうに食べていて、みんなと一緒に食べられるというのも楽しいですね。



大久保会長 ありがとうございます。六和会としても、こうした形で学生の皆さんを支援していけたらと思っていますので、今後ともよろしくお願ひいたします。

熊木副会長 では少し大きなテーマになりますが、学長には「ひらく、ここから。」というキャッチフレーズのもと、地域や社会とのつながり、そしてそれをどう切り拓いていくかという点についてお話しただければと思います。

禿学長 地域との関わりについては、短大創設当初から先生方がさまざまなご苦労を重ねてこられたと思います。以前は学科数も多く、それぞれの学科に付随する形で、例えば生活科学学科では「生活文化研究センター」、幼児教育学科では「幼児教育研究センター」、音楽学科では「音楽教育研究センター」、国文学科では「郷土文学研究センター」が設置され、短大が持つ教育・研究資源を地域に提供する、いわば「サービス機関」的な役割が中心だったように思います。

しかし、時代の変化とともに、今はむしろ地域から学びの機会をいただき、共に活動していくという方向にシフトしてきていると感じています。最近では、小中高でも「課題探究型学習」が目ざれており、地域と密接に関わる教育が求められています。そうした中で、短期大学も地域に必要とされる存在として、地元で気軽に学べる高等教育機関を目指していけたらと考えています。

特に幼児教育に関しては、県の支援も進んできており、本学には附属幼稚園や隣接する保育園もあることから、そうした施設との連携をさらに強化していければと思っています。そのあたりは、石川先生に中心となって取り組んでいただけるのではないかと期待しています。

石川副学長 県内で唯一の短期大学として、仁愛女子短期大学が歩んできた

60年の歴史には、非常に大きな意味と重みがあると感じています。これまで積み重ねてきた伝統や、仁短ならではの教育的なマインドは、しっかりと受け継ぎ、次の世代へとつなげていくことが大切だと強く思っています。

現在、18歳人口が減少している中にあつても、短期大学としての教育の意義は変わらず重要だと考えています。そうした中で、社会とともに歩む「唯一の短期大学」として、仁愛女子短大の存在意義を再確認し、「ひらく、ここから。」というメッセージのもと、これからの短大の在り方を模索していく必要があると感じています。

「ひらく」という言葉には、学生や教職員が地域に出ていくという方向性と、地域の方々に大学へ足を運んでいただくという、双方の関係性が込められていると思います。これまでも地域とのつながりはありましたが、今後はさらに、六和会の皆さまのご経験を教育に生かしていただくような、新たな連携の形も生まれてくるのではないのでしょうか。そうしたつながりは、今後ますます重要になってくると考えていますので、六和会の皆さまにはぜひご協力をお願いしたいと思っています。

また、60年間受け継がれてきた「仁愛兼済」の建学の精神は、今も本学の根幹にあります。この精神を体现する卒業生が多く社会で活躍されており、今後も若い世代がその志を持って社会に貢献していくことは、地域にとつても、非常に意義深いことだと思います。私たち教職員も、学生に教えるだけでなく、学生から学ぶことも多くあると感じています。世代間のギャップを埋めながら、互いに学び合い、共にこのキャンパスを活性化させていくことが、地域における仁愛女子短大のプレゼンス（存在感）を高めていくことにつながると信じています。

熊木副会長 今、「マインド」というお言葉がありました。六和会の総会などを開催すると、比較的年配の同窓生の方々が多く集まってくると思います。そうした先輩方からは、学生時代に先生からかけられた言葉や、学園長先生がおっしゃっていた「青色青光」といった建学の精神にまつわる言葉が、自然と語られることが多いです。卒業して何十年が経つても、短大での学びや心に残る言葉が、皆さんの中にしっかりと根付き、今も大切にされているのだと、改めて感じさせられます。

石川副学長 若いときには、「それ何？」と感じるような言葉でも、歳を重ねていくうちに、ふとした瞬間にその意味がわかってきたり、思い出されたりすることがあるのですよね。私自身も年齢を重ねる中で、そのような実感が増えてきました。

よく引用される話ですが、ステイプ・ジョブズが「Connecting the dots（点と点をつなぐ）」という言葉を残していますよね。一つひとつの経験は、その瞬間にはつながりが見えなくても、時間が経つて振り返ったときに、「あの経験が、今の自分につながっていたのだ」と気づくことがある、と。確か、スタンフォード大学の卒業式でのスピーチだったと思いますが、この考え方に私はとても共感しています。

今は、まだそういった実感がわからないかもしれませんが、将来きつと「あの時の経験が、今につながっているのだな」と思える瞬間が訪れると思います。だからこそ、長谷川さんが話してくれたように、「今この瞬間」を大切に、楽しみながらさまざまな経験を積んでほしいですね。そのひとつひとつが、いずれ線としてつながっていくはずですから今こそ、若さや青春を存分に謳歌してほしいですね。

長谷川さん はい！

大久保会長 六和会として現役の学生さんたちと直接交流できる場が、仁短祭のときに「六和会コーナー」として設けられています。これまで展示を中心に行っていましたが、昨年はお抹茶体験席やヨガの体験コーナーを実施しました。

でも、やはり、もつと学生の皆さんと自然に触れ合えるような、交流が生まれるような企画もできたらいいなと考えています。先ほど、石川副学長先生がおっしゃったように、卒業生の持つ「力」を、もつと現役の学生さん達にアピールできるような形で参加できたらと思っています。六和会の存在が学生さんにとって負担にならず、むしろ刺激になったり励みになったりする、そんなコーナーにするのが理想です。もしかしら、お邪魔かもしれません（笑）。

長谷川さん いえいえ、そんなことないです。

熊木副会長 本日は大変貴重なお話をたくさんいただき、本当にありがとうございます。最後に、何か一言ございませんか？

禿禿長 そうですね。60周年を記念してスタートした「HIP」は「ひらくじんたん プロジェクト」は、前年には「HIP」は「ハッピー じんたん プロジェクト」という言葉が、もともとありました。その名の通り、学生の皆さんが「ハッピー」な2年間を過ごせるように、学生が計画した様々な企画を実現できるよう短大教職員だけでなく、六和会の皆さまとも力を合わせて応援しながら進めていけたらと考えております。

さらにその中で、地域の方々にも注目していただき、開かれた短大として関心を持ってもらえるような環境づくりができれば、それが一番だと感じています。

熊木副会長 素晴らしいメッセージを

いただきました。ありがとうございます。大久保会長 今のお言葉を受けて、六和会もこれからしっかりと活動していき

たいと思います。熊木副会長 本日は、お忙しい中ありがとうございました。

開学60周年。ひらく、ここから。



ご挨拶



六和会会長 大久保郁子



関西支部長 右谷久枝



議長 青木さそ子



手で「仁愛のJ」を作って、笑顔でパチリ!

令和6年度 六和会総会&懇親会

ご報告

令和6年11月23日(土)、開業間もない「コートヤード・バイ・マリOTT福井」にて、令和6年度の六和会総会を開催しました。当日は、41名の同窓生の皆さまにご参加いただきました。
総会では、六和会の活動報告や



総会の様子



禿正宣学長のご挨拶



島田貢明副学長より乾杯のご発声



歓談タイム



テーブル対抗Jジャンケン・洗濯バサミ使い切りゲーム

会計報告等が行われ、すべての議案について承認をいただきました。総会に引き続き、禿学長・島田副学長をお迎えして懇親会が行われました。懇親会では、「コートヤード・バイ・マリOTT福井」自慢のビュッフェ料理がふるまわれ、参加者の皆さんからも大好評でした。
レクリエーションタイムは、「テーブルJジャンケン・洗濯バサミ使い切りゲーム」を楽しみました。



自慢のビュッフェ



【ルール】
①各テーブルに同数の洗濯バサミを配る。
②配られた洗濯バサミをメンバーで分ける。
③同じグループの人とはジャンケンができない。
④勝った人は負けた人に洗濯バサミを一個渡し、相手を変えながらジャンケンを進める。
⑤ゲーム終了後、各テーブルの洗濯バサミが少ない方が良い。
「最初はJジャンケンポン！」の元気な掛け声で始まったジャンケンゲームにより、会場内は元気な掛け声や笑顔でいっぱいになり、プレゼントも配られて大いに盛り上がりました。
令和7年度総会は、京都市の「東華菜館」にて、11月15日(土)に開催予定です。(詳細はp3をご参照ください) 皆さまのご参加を、心よりお待ちしております!



六和会副会長 寺崎美智江より中締めの挨拶

卒業生はいま

「皆さん、すこやかに過ごしてお過ごしでしょうか！
人生、アツという間です、本当！」

昭和44年度 家政科 栄養士コース卒業 右谷 久枝（旧姓：根府）

私は、昭和45年3月に家政科栄養士コースの第一期生として卒業しました。

昨年、「仁愛女子短期大学栄養士養成課程同窓会」に出席するため、久しぶりに短大を訪れたことで、まるでタイムトラベルをしたかのような感覚になりました。

現在の学び舎は明るく、若々しく、新しさを感じさせる変化がありました。思い出深い体育館はそのまま、学生の頃楽しんでプレーをしていた卓球台の前で、昭和44年度卒業生として写真を一枚撮影しました。

私は、京都に移り住んでから、栄養士専門学校や建設省の小規模な出張所、会社の社員食堂などで59歳まで働いてきました。

その後、学生時代から続けてきた卓球を週に三回練習し、月に二回は試合に参加しています。汗はたっぷり流すものの、なかなか強くなれません。

また、50歳を迎えてからは、京都駅前の社会福祉センターで南京玉すだれの稽古を始め、京都府内の介護福祉施設や様々な催しで演じるようになりました。ボランティアとして年間20回以上活動しており、張り切って楽しく演じています。



その私が、令和6年度より関西支部長を務めることになりました。そして、令和7年の六和会総会は京都で開催されます。関西副支部長の浅見理恵氏と六和会理事の皆さんで協議した結果、会場は「東華菜館（とうかさいかん）」に決定しました。この店は、京都の中心街・四条大橋のたもとに位置し、日本最古のエレベーターが今なお現役で活躍していることで有名な由緒あるお店です。

11月の六和会総会には、ぜひ、同窓生の皆さんに参加していただきたいと思っています。日々、気持ちが沈むこともあると思いますが、ゆったりとしたひとときを過ごしながら、同窓生の皆様とおしゃべりを楽しみにしております。グッドラック！

「日々感謝」

昭和56年度 児童教育学科幼児教育専攻卒業 大浦ますみ（旧姓：福塚）

私は幼少期の「紙芝居や絵本をたくさん紹介できる幼稚園の先生になりたい」という夢を叶えようと、仁短に入学しました。しかし、残念ながら卒業式には出ておりません。なんと風疹に罹ってしまったのです。後日、担任の谷出千代子先生から一人卒業式をしていただいたのが思い出されます。

卒業後は県立高校の実習助手として就職。その後司書資格をとり学校図書館の仕事を中心に担ってきました。当時は有資格者が少なく校内で一人職であり、手探りでスタートでした。それでも40年という長きにわたって本と生徒達に囲まれた生活を続けることができたのは、生徒と同僚さらに司書仲間の支えがあったからだと感謝しております。

読書離れといわれる中、忙しい高校生をどうやって本の世界へ誘うか試行錯誤の日々。「敷居の低い図書館」「毎日変化のある図書館」そして、生徒や教職員のレファレンス（利用者サポート）には精一杯対応することを目指し活動を続けました。本の貸し借りだけでなく、「困ったときには図書館へ」を合言葉に、生きた図書館になるよう様々なしなやかな日々を過ごしました。気が付けば多くの生徒達が自然と足を運んでくれるようになり楽しい思い

出ばかりです。近年は図書館を使った授業が計画的に導入され、さらなる活性化に繋がったのも感謝でした。

その中で強く感じたのは、乳幼児期に本と触れ合う環境の大切さです。次世代を担う高校生に、そのことを折に触れ授業の中で自信をもって伝えることができたのは、仁短での学びのおかげだと感謝しています。

退職後は、子育て支援センターで絵本の紹介をしたり紙芝居を演じたりするなど、キラキラ輝く親子と幸せな時間を過ごしています。ときに親となられた教え子さんが「親子で本好きになりました」と図書館で両手一杯の本を笑顔で抱える姿や、司書となって活躍したりする姿に出会えることは本当に嬉しいことです。

これからも、日々感謝を忘れず置かれた場所で歩んでいきたいと思えます。



恩師谷出先生と

「栄養士養成課程同窓会」を終えて ～ご報告とお礼～

55年余り続いた仁愛女子短期大学栄養士養成課程が、令和7年3月末をもって長い歴史に幕を閉じました。その節目を前にした令和6年11月16日(土)、卒業生同士がつながりを深める場として「栄養士養成課程同窓会」が開催されました。晩秋のあたたかな午後、会場の仁愛女子短期大学カフェテリアには、120名が賑やかに集い、栄養士養成課程の歩みを振り返るとともに、懐かしい恩師や旧友との再会を喜び合いました。

同窓会に先立って行われた参加者そろっての集合写真撮影では、世代を超えたチームワークがひかり、和やかな雰囲気の中で思い出を形として残すことができました。

実行委員長の開会挨拶から始まった同窓会では、多数のご来賓の皆さまより心温まるご挨拶をいただき、同窓生がそれぞれの道を歩む中で、あらためて「栄養士養成課程」で学んだ日々と、いろいろな方とのつながりを感じる機会となりました。

茶話会の時間には、学生時代の写真をまとめたスライドショーが上映されました。モノクロやセピア色の写真もちらほら、入学式の緊張感あふれる一枚や、実習・実験などの授業

風景、大学祭やサークルでの一コマに、「こんなことあったね」「わっ、懐かしい!」と、会場は温かい笑顔で溢れました。

当日はご多忙の中、恩師の先生方にもご臨席いただき、お一人ずつから心のこもったお言葉を頂戴しました。変わらぬ様子とお声に在学時の面影が重なり、感慨深いひとときとなりました。

さらに、会場内には、当日ご出席がかなわなかった恩師の方々も含め、先生方のお写真をあしらった実行委員手作りのパネルも展示。多くの方が足を止めて思い出を共有されていました。

栄養士養成課程は閉じられましたが、そこで育まれた専門性と友人との絆は、これからも変わらず高まり深まり続けていきます。それぞれの場所で学びを活かしながら、この先も同窓生として、互いに励まし支え合える関係を大切にしていけたら、と願っています。

このたび、同窓会が無事に開催することができましたのは、実行委員の皆さまの多大なご尽力と、参加者の皆さまのご協力のおかげです。ここに、心より感謝申し上げます。

● 栄養士養成課程卒業生 2,624名 ● 栄養士免許取得者 2,555名



栄養士養成課程の歴代の恩師と同窓生の皆さん



**“仁短祭”の
お知らせ**
10月18日(土)
開催



今年も仁短祭が開催されます。六和会主催による月2回開催の「ヨガ教室」の体験や、「お抹茶席での茶筌振り」の体験なども予定しております。同窓生コーナーもありますので、是非ご来場ください。



六和会活動報告&計画

2024年	4月25日	会報編集会議（学内委員）	仁愛女子短期大学	第1会議室
	5月13日	会計調査	仁愛女子短期大学	同窓会室“しおん”
	6月3日	会計監査	仁愛女子短期大学	同窓会室“しおん”
	6月10日	ホームページの更新	仁愛女子短期大学	
	6月21日	執行部会議	仁愛女子短期大学	第1会議室
	6月29日	第1回 六和会役員会	仁愛女子短期大学	第1会議室
	8月25日	会報54号発行		
	10月19日	仁愛女子短期大学大学祭	仁愛女子短期大学	
	11月23日	六和会総会（福井）	仁愛女子短期大学 コートヤード・バイ・マリオット福井	
2025年	2月28日	会報編集会議（学内委員）		
	3月7日	執行部会議	仁愛女子短期大学	第1会議室
	3月14日	2024年度卒業式 新会員入会	190名入会	
	3月15日	第2回 六和会役員会	仁愛女子短期大学	第1会議室
	5月12日	会計調査	仁愛女子短期大学	同窓会室“しおん”
	5月14日	会報編集会議（学内委員）	仁愛女子短期大学	
	5月20日	会計監査	仁愛女子短期大学	同窓会室“しおん”
	6月20日	執行部会議	仁愛女子短期大学	第1会議室
	6月28日	第1回 六和会役員会	仁愛女子短期大学	第1会議室
	6月下旬	ホームページの更新		
	8月下旬	会報55号発行		
	10月18日	仁愛女子短期大学大学祭	仁愛女子短期大学	
	11月15日	六和会総会（京都）	仁愛女子短期大学 東華菜館	
2026年	3月上旬	会報編集会議（学内委員）		
	3月上旬	執行部会議	仁愛女子短期大学	
	3月上旬	第2回 六和会役員会	仁愛女子短期大学	
	3月13日	2025年度卒業式 新会員入会	仁愛女子短期大学	

ヨガ教室のお知らせ

みなさんの心と体の健康づくりのためにヨガ教室に参加してみませんか？ ヨガがはじめての方大歓迎です！

- 期日 毎月 第2、第4水曜日
- 時間 18:30～19:30
- 場所 F館2階ダンススタジオ
- 講師 ハタヨガインストラクター

健康運動指導者 吉田 庸子先生



【準備物】

- ・動きやすい服装
- ・タオル・飲み物

【参加料1回】

500円
(学生無料)

同窓会コミュニケーションルーム “しおん”をご利用ください！

同窓生同士や、短大の学生・教職員、地域の方々と連携していく拠点として是非ご利用ください。同窓生なら、どなたでもご利用いただけます。

- 使用時間 9:00～20:30まで
- 使用曜日 月～日曜(日曜は9:00～17:00)

※使用例 ポーセラーツ教室、押し花教室、紙バンドバック教室、帽子づくり教室、同窓会役員会等



六和会の情報をSNSで 発信しています！

六和会の活動やお知らせ、仁短の雰囲気などをUPしています。ホームページも併せてぜひご覧ください♪

六和会Instagram



インスタのフォローを
お願いします！

六和会ホームページ



2025年度 六和会後援事業

六和会では、仁愛女子短期大学の発展に寄与することを目的とする活動に対し、後援事業を行っています。2024年度に後援した事業は、「絵とフルーツの演奏会」、「辻友美ソプラノリサイタル」です。

六和会後援事業等、
すべてのお問い合わせはこちらまで



同窓生の方なら、どなたでもお申し込みいただけます。

TEL.0776-56-1133 (担当:佐々木)

幼児教育学科ホームカミングデー開催

幼児教育学科卒業生の皆さん、短大時代の友人や先輩後輩、先生方と和気あいあいとした雰囲気の中で、様々なことを語り合いませんか？

当日は、仁短祭も同時開催しています。子ども向け企画「じんあいこどものくに」にも、是非お子さんと一緒にご参加ください。



- 日 時 令和7年10月18日(土)
- 対 象 仁愛女子短期大学幼児教育学科卒業生
- 申込方法 本学ホームページでご確認ください。

公開講座のお知らせ



仁愛女子短期大学では毎年、様々な公開講座を開催しています！
本学ホームページ「公開講座」よりご確認ください。



<https://www.jin-ai.ac.jp/intro/openclass.php>

社会人入学生募集のお知らせ



本学では社会人入学生を募集しています。ご関心がある方はぜひ一度、お問い合わせください。

- 生活科学学科
生活情報デザイン専攻
- 幼児教育学科

モバイル版は
こちらから→



お知らせ

ふるさと納税で、仁愛女子短期大学を応援してください!!

福井県の「プロジェクト応援型ふるさと納税制度」を利用し、寄付額の4/5を寄付者が指定する福井県内の8大学等(例 仁愛女子短期大学や仁愛大学)に交付される制度です。2,000円を超える金額について、一定の限度額まで原則として所得税・住民税が控除されます。

仁愛女子短期大学での寄付金の使い道は、Jin-tanDX人材育成事業に使用させていただきます。学生の資格取得支援のために、ぜひとも仁愛女子短期大学へのご寄付を検討いただきますようお願い申し上げます。



←モバイル版は
こちらから

Jin tan DX人材育成事業

DXをサポートする人材の育成を目的として、資格取得に挑戦する学生の支援や、そのための学習に必要な機器の整備などを行います。

寄付いただいた方へのお礼について

仁愛女子短期大学では、ご寄付いただいた方に対して、クリアファイルやエコバックなど大学オリジナルグッズ等をお送りしています。(県外在住者に限ります。)

じんたん公式SNSで情報発信しています!



じんたんの最新情報やじんたんオリジナルソング、学科の魅力、じんたん生の日常など様々なことを配信しています。ぜひご覧ください♪



最新情報
配信中♪

Information

- | | | |
|---|--|---|
| <p>■ 現在の学生数
(令和7年5月1日現在)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 生活科学学科
.....162名 ● 幼児教育学科
.....122名 | <p>■ 退職</p> <p>小林 恭一(教授)
牧野みゆき(教授)
小川 智枝(講師)
橋本亜優美(助手)
富田 桃子(助手)
坪田久瑠実(助手)</p> | <p>■ 仁愛大学へ異動</p> <p>牧野みゆき(教授)
高木 康之(准教授)
森 恵見(講師)</p> |
|---|--|---|

再就職の情報提供

一度仕事を離れて再び仕事を始めたいと考えている方には、キャリア支援課で情報提供いたします。現在、特に保育職が求められています。お気軽にお問い合わせください。

◆お問い合わせ先: TEL(0776)56-1133 (担当:キャリア支援課)



[編集委員] 浦井かおり / 木内真子 / 木戸公恵 / 熊木雅代 / 黒田亜澄香 / 黒田 楓 / 佐々木美佳 / 竹下真弓 / 仲村 愛 / 東 樹音

仁愛女子短期大学 六和会

〒910-0124 福井県福井市天池町43-1-1 TEL 0776(56)1133 <https://jintan-rokuwakai.com>